

# 市民検討会議 意見書

～第6次幸手市総合振興計画の策定に向けて～

平成30年6月

第6次幸手市総合振興計画市民検討会議



# 1. 市民検討会議について

市民検討会議は、市民の視点から幸手市の計画・施策に関して検討し、基本構想・前期基本計画の策定にあたっての意見及び提案を行うために設置されました。

平成30年2月から5月にかけて計7回の会議を開催し、今後の幸手のまちづくりの課題や取り組みのアイデアなどについて15人の検討委員により活発な議論がなされました。

第1回・第2回会議では、基礎データ等から幸手市の現状を把握した上で、今日の幸手市の良い点・課題を整理し、10年後を見すえた主要課題を検討しました。

第3回会議では、現行計画の7つの政策分野ごとに課題を整理し、第4回会議では、幸手市の10年後を見すえた「まちづくりの基本理念」と「将来像」についての意見を出し合い、第5回・第6回では政策分野ごとの具体的な取り組みのアイデアを検討しました。

以上の検討をふまえ、市民検討会議の意見書を作成しました。

## ■検討経過

	開催日時	内容
第1回	平成30年2月19日(月) 19:00~21:00	<ul style="list-style-type: none"><li>・総合振興計画について</li><li>・幸手市の現状について(基礎データの報告)</li><li>・意見交換</li></ul>
第2回	平成30年2月26日(月) 19:00~21:00	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報提供(幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略の報告)</li><li>・グループワーク①:まちの良い点・課題の検討</li><li>・グループワーク②:幸手市の10年後を見すえた課題の整理</li></ul>
第3回	平成30年3月9日(金) 19:00~21:00	<ul style="list-style-type: none"><li>・情報提供(市民意識調査結果の報告)</li><li>・グループワーク:現行計画の7つの政策分野における課題の整理</li></ul>
第4回	平成30年4月5日(木) 19:00~21:00	<ul style="list-style-type: none"><li>・検討テーマに関する情報提供</li><li>・グループワーク①:将来像の検討</li><li>・グループワーク②:まちづくりの基本理念の検討</li></ul>
第5回	平成30年5月16日(水) 19:00~21:00	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループワーク:現行計画の7つの政策分野における取り組みのアイデアの検討(政策1~4について)</li></ul>
第6回	平成30年5月23日(水) 19:00~21:00	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループワーク:現行計画の7つの政策分野における取り組みのアイデアの検討(政策5~7について)</li></ul>
第7回	平成30年5月30日(水) 19:00~21:00	<ul style="list-style-type: none"><li>・市民検討会議意見書(案)の確認について</li></ul>

## 2. 幸手市のまちづくりについての市民提案

### (1) 重要課題と課題解決のための施策の方向性

10年後の幸手市にとって特に重要と思われる課題と、課題解決のための施策の方向性について話し合いました。

#### 重要課題と施策の方向性

##### (重要課題) 人口減少への対策

- ・圏央道開通を契機ととらえた、働く世代の移住・定住促進対策
- ・働きたい・子育てしたいと思えるまちづくり

##### (重要課題) 産業の活性化

- ・地域内での経済循環を促進する施策
- ・地域産業のブランド化の推進

##### (重要課題) まちなかの空洞化対策

- ・中心市街地に人が集う仕組みづくり
- ・まちなかの空き店舗や空き家の有効活用と、人が集う拠点づくり
- ・西口開発を活かしたまちづくりの検討

##### (重要課題) 地域資源としての権現堂堤の活用

- ・近隣でも有数の来場客数を誇る権現堂堤を活用した、市内事業者にも波及効果が生まれる仕組みづくり

##### (重要課題) 多世代がいきいきと暮らせるまちづくり

- ・子どもの貧困対策
- ・高齢者の活躍の場づくり

##### (重要課題) 今後の自治会活動のあり方

- ・地域の安心・安全に寄与してきた自治会の活動継続ができるような取り組み

##### (重要課題) 行財政のあり方

- ・現計画の課題をふまえた実現性のある計画の策定
- ・人口減少による影響をふまえた行財政運営（人口規模にあった公共施設の更新、事業の選択）

## (2) まちづくりの基本理念と将来像について

幸手市の10年後にどのようなまちになりたいかを話し合い、めざすまちづくりの基本理念や将来像として、取り入れたい考え方や表現について検討しました。

### 【まちづくりの基本理念の考え方】

- 市民が主体的に取り組み、市民と行政が同じ目線で協力する関係を表現する。
- 「安心」や「安全」はこれからも確保し続け、子ども、若者、高齢者までのすべての世代が住み続けたいと思えるまちづくりを表現する。
- 幸手市の歴史、文化、地域資源の魅力を発信するとともに郷土を誇れるまちづくりを表現する。

### 【将来像として取り入れたい内容】

- 幸手市の個性を表現する
- 幸手市の豊かな自然のイメージを表現する（「桜」を使ったキャッチフレーズ等）
- 「幸手」という地名を活かした言葉を入れる（「幸せを手にするまち」等）
- 子どもや、未来への想いを表現する
- 「住み続けたい」「住みたい」「住みやすい」など、住みよさや暮らしやすさを表現する
- 幸手市に住む人のあたたかさが感じられる言葉を入れる
- どの世代もまちに関わり、まちに関わることで市民が輝く、というイメージを表現する

### (3) まちづくりへの提言

10年後を考えるための重要課題と施策の方向性を念頭に置きながら、現行計画の7つの政策分野ごとに、現状と課題、取り組みのアイデアを検討しました。

特に施策の内容によっては、市民（個人だけではなく、企業や様々な団体なども含めて）と行政との協働により取り組むことで、より効果的になると思われるものについては、（協働）と記載しています。

## 1 安心安全・環境分野

### 【現状と課題】

- ・内水氾濫の危険度が高い箇所が分かりづらい
- ・子どもの交通安全に関してさらに対策が必要
- ・地域の安心・安全をつくる地域団体（自治会等）の活動が今後も持続できるかどうか不安がある
- ・川や田んぼの一部にゴミ等による汚れが見られるなど、自然資源が活かされていない

### ➤ 取り組みのアイデア

#### ■ 子どもの交通安全の確保

- ・子どもやお年寄りなど歩行者の安全確保に重点を置いた、実態に即した道路整備

#### ■ 自治会活動の活性化支援

- ・多様な機会を通じ、自治会未加入の方に対して自治会活動に関する情報提供を行うとともに、自治会活動に対する支援をする

#### ■ 内水氾濫から身を守るための環境整備

- ・治水対策を継続して実施する
- ・内水氾濫の危険箇所を、だれでもわかるようまちのなかに明示（看板を設置するなど）する

#### ■ 自然資源を楽しむための環境整備への支援

- ・市民が川や田んぼ等の清掃活動をしやすいように環境を整える（立入危険箇所の改善など）
- ・川や田んぼ、雑木林や屋敷林等で子どもが遊んだりできるような自然環境を楽しむ環境づくり（協働）
- ・自然環境に影響を与える外来生物への対策を行う（協働）

#### ■ 地域の安心・安全づくり

- ・自治会活動への積極的な参加（協働）
- ・自治会活動の活発化（協働）
- ・自治会による必要な箇所への防犯カメラ設置に対し支援を行う（協働）

## 2 健康福祉分野

### 【現状と課題】

- ・ ウェルス幸手を中心に行われている子育て支援が充実している
- ・ 子育て環境は良く、市内に待機児童はいないが、保育園等新設の際にはすぐに定員に達することから、潜在的な保育ニーズがあると思われる
- ・ 一人暮らしの高齢者が安心して暮らせる環境づくりが必要である
- ・ 高齢者の活躍の場が十分でない
- ・ 市の健康づくりの施策の周知が十分でない
- ・ 近所で起こっている身近な問題（福祉的支援が必要な家庭の発見等）について、どのような組織・機関に相談して良いかわからない
- ・ 地域資源である日本保健医療大学が有するノウハウ等を十分活かしきっていない

### ➤ 取り組みのアイデア

#### ■ 保育ニーズを受け止める体制

- ・ 保育園を新設する
- ・ 保育ステーションを設ける

#### ■ 子育てしやすい環境づくり

- ・ 子育て世代のネットワークづくり（協働）
- ・ 子育て応援まつりの実施（協働）

#### ■ 一人暮らしの高齢者が元気に安心して暮らせる環境づくり

- ・ 1万歩マイレージの積極的なPRと市民の積極的な参加（協働）
- ・ 活躍の場としての老人クラブを、もっと参加したくなるものにする（組織名称の変更等）（協働）
- ・ 健康体操をさらに普及させる（協働）

#### ■ 地域にある医療関係機関等との連携による健康なまちづくり

- ・ 地域医療機関や医療系大学との連携により、特色ある医療・福祉の施策を推進し、安心して住める地域づくり（協働）

#### ■ 地域での支え合い

- ・ 身近な問題から、支援が必要な方を発見し、適切な機関に相談する（協働）
- ・ 地域・行政・企業等、様々な主体が連携し、必要な支援を行う（協働）

### 3 都市基盤分野

#### 【現状と課題】

- 桜の季節には多くの観光客が集まる
- 「さくらのまち幸手」のポテンシャルを十分活かしきれていない
- 昔から変わらない田園風景がある
- 駅から権現堂公園までの道のりに、立ち寄れる場所が少ない
- デマンドバスは満席の場合が多く、予約が取れないため、市内の交通が不便に感じる
- 引き続き、整備が必要な橋りょうがある
- 圏央道で幸手市に来た方が利用できる駐車場が幸手 IC 周辺に未整備のため、圏央道利用者の立ち寄り機会を逃している
- 下水道普及率が低い

#### ➤ 取り組みのアイデア

##### ■ 公共交通機関の充実

- 市内循環バスの検討を始めとした、より多くの人々が利用でき、費用対効果が高い公共交通の検討

##### ■ 道路と道路網の整備

- 渋滞の解消のため、駐車場を整備し、徒歩や自転車の利用を誘導する。
- 街の活性化につながる、効果的な道路網を整備する。

##### ■ 橋りょうの整備

- 橋りょうの整備を引き続き計画的に行う

##### ■ 下水道事業の推進

- 下水道普及率が他の市町村よりも低水準となっていることから、積極的に整備を行う

##### ■ 圏央道幸手 IC 付近の整備

- 幸手 IC を降りた方たちが市内に駐車できるような環境を整備（例 アスカルの駐車場を整備）する

##### ■ 「古き良き」風景を守る

- 田んぼや権現堂公園、日光街道沿いの宿場町などの風景を守る（協働）

## 4 教育分野

### 【現状と課題】

- ・全国的に、子どもの貧困の問題が取り上げられている
- ・公立学校より、私立学校を選択するケースが増えている
- ・児童・生徒数が減少している
- ・ひばりが丘球場が十分に活用されていない

### ➤ 取り組みのアイデア

#### ■ 子どもの貧困対策

- ・子どもの貧困にかかる実態の把握
- ・地元の米農家や加工業者等の協力を得て、食材の有効活用を兼ねた子ども食堂を運営する（協働）

#### ■ 「通いたい・通わせたい」学校づくり

- ・特色がより明確な学校をつくる（協働）
- ・「幸手かるた」を積極的に活用する
- ・教育環境充実に向けた中長期のビジョンを検討する
- ・市費による教員数の充実（きめ細やかな指導）

#### ■ 地域で学べる環境づくり

- ・幸手市ゆかりの囲碁や、ニュースポーツ（ボルタリング）などを特色とした教育を検討する（協働）
- ・幸手市からオリンピック選手が出せるような、スポーツ応援団をつくる（協働）
- ・特色のあるスポーツイベントを行う  
（例 ひばりが丘球場に女子プロ野球チームの試合を招待）
- ・昔あそびを地域の子どものに教える（協働）
- ・英会話などこれから役立つ知識を子どもに教える（協働）
- ・埼玉県はいきがい大学等で学んだ知識・技能を地域に還元する（協働）
- ・高齢者の学びたい意欲に応えられる場、大人と子どもが共に学べる場をつくる

## 5 産業分野

### 【現状と課題】

- 幸手駅から権現堂公園までの道のりに、立ち寄れる店舗等が少ない
- 空き店舗の活用が十分出来ていない
- 事業者間の競争があまりないように見える
- 桜まつりの時期の渋滞が激しいため、市のイメージダウンにつながる恐れがある
- 中心市街地に公共施設等がなく、立ち寄る機会があまりない

### ➤ 取り組みのアイデア

#### ■ 権現堂公園の集客性を活かす

- 権現堂公園への観光客の回遊性アップを目指した魅力ある個店づくりの支援（チャレンジショップ等の仕組みづくり）（協働）
- 権現堂へ向かう人々が道中を楽しみ、お金を落としてもらうためのアイデアを出し合う（協働）

#### ■ 権現堂堤の観光シーズンの渋滞解消

- 公共施設の駐車場を利用する
- 休日の小中学校校庭を活用し、大型バスによるピストン輸送を行う
- 民間施設の駐車場利用や、常用・臨時双方の駐車場管理により、駐車場問題の解決を図る

#### ■ 集客のための新たな取り組み

- ニュースポーツ等、近隣都市の先駆けとなるものに取り組む（協働）

#### ■ 魅力ある商工業

- 積極的に市内でコンペを実施する（協働）
- 特産品のブランド化を図る（協働）

#### ■ 空き店舗の活用

- 空き店舗を活用したチャレンジショップ等の仕組みづくり（協働）
- 空き店舗の持ち主と、出店希望者を結びつける仕組みづくり（協働）
- オフィスとしての使用等、飲食店や小売店に限らない、特色のある空き店舗活用の検討（協働）

#### ■ 個店のPR力向上

- PR力向上への支援を行う（協働）

#### ■ 安定した収入のある農業づくりの支援

- 農家の法人化や六次産業化の支援を行う

## 6 市民活動・人権分野

### 【現状と課題】

- 地域内で顔見知りの関係があり、つながりが強い
- 自治意識が高い
- 自治会の高齢化が進んでいる
- 世代や、居住形態によって自治会への考え方に差があり、自治会活動が難しくなっている
- 高齢者の活躍の場が十分でない
- 地域への愛着をさらに育むことが必要

### ➤ 取り組みのアイデア

#### ■ 災害に対応できる自助・共助の仕組みづくり

- 地域特性に合わせた自主防災活動への支援（協働）
- 自主防災活動の組織化への支援（協働）
- 自主防災組織が組織化された後の稼働への支援（協働）
- 地震、洪水などの災害に対する初動体制について、地域に応じた自主防災活動の主体的な活動や市の活動などの情報の共有化を図る（協働）

#### ■ 次世代への自治会活動の継承

- 自治会活動を継続するための方策を検討する（協働）
- 自治会に参画している世代と若い世代との交流を行う（協働）

#### ■ 地域での高齢者の活躍に向けた支援

- 地域活動に参加していない高齢者に参画してもらうための手法を検討する（協働）

## 7 行財政運営分野

### 【現状と課題】

- ・豊富な人材を十分活用しきれていない
- ・財源が限られているので、より財源の有効利用を図る必要がある
- ・市財政に関する認識について市民と行政との間で差がある

### ➤ 取り組みのアイデア

#### ■ 民間等との連携、協働

- ・大学・NPO法人など民間等との連携、協働による事業を積極的に行うことで豊富な人材を活用する

#### ■ 行財政の効率化・情報の共有

- ・財政状況や予算、決算について分かりやすい方法や効果的なタイミングで公表し、行財政運営について市民と行政で共通の認識をもつ。
- ・指定管理制度の実効性や効率性を適切に検証し、市民にわかりやすい方法で公表する
- ・補助金の交付については、外部評価を導入することなどで、より客観性、妥当性を高めた市民の視点に立った評価を行い、事務改善に活かす（協働）
- ・事業の取捨選択をし、重点的に取り組む事業を決めて予算をつける

#### ■ 人材育成

- ・即戦力となる中途人材を積極的に雇用する
- ・民間企業等との効果的な人材交流を行う
- ・10年後を見据えた人材確保を行う

#### ■ 移住・定住への取り組み

- ・日本保健医療大学などに通う若者に地域を知ってもらい、幸手に住んでもらう取り組みを行う（協働）

## 第6次幸手市総合振興計画市民検討会議委員名簿

(敬称略)

No.	役職	氏名	所属団体等
1	委員長	小川 哲也	幸手市PTA連合会
2	副委員長	増山 勝一	公募
3	委員	宮澤 新一	幸手権現堂桜堤保存会
4	〃	坂本 達夫	さって市民環境ネット
5	〃	山本 晶子	幸手子育て支援ねっとわーく
6	〃	花宮 珠恵	幸手シルバー人材センター
7	〃	船川 由孝	埼玉みずほ農業協同組合
8	〃	石川 伸二	幸手市商業協同組合
9	〃	森泉美江子	幸手市連合婦人会
10	〃	出井 保信	幸手市区長会
11	〃	前田 貴敏	社団法人 幸手青年会議所
12	〃	稲垣 仁美	公募
13	〃	七海 和生	公募
14	〃	染谷 貴之	公募
15	〃	伊藤 敦彦	公募